

やすらぎだより

2
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

業務執行理事コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第188号

「浮かばぬネタ」

業務執行理事 植田 誠



「施設長、コラムの原稿締切は・・・日です」
月末が近づく頃に、広報委員から一枚のメモが届く。何年も繰り返されてきたやりとりだ。

「ギリギリになるけど、ゴメンね」

返す言葉はいつも同じ。数日先であっても何が起こり得るかわからない未来に備える、という訳が分からぬ理由から、最終日以前に提出したためではない。

「さて、題材は？」

広報委員からのメモをいくらシゲシゲと眺めても、腑に落ちるネタなど浮かぶはずなどない。

「ひと月もあれば、早くから考えておけば・・・」

そう心に決めたからといって、準備万端整えられるほどの想いも薄く、発想力も持ち合わせてはいない。何より、私は短期集中型が性に合っている。そんなこんなで、たかだか九百字足らずの拙文に費やす執筆、否、作成には必ず2時間以上は有する。

そういう反復を続けて十六年が経過した。

介護保険が導入され5年が経過し、社会福祉法人の公益性が問われ出した頃、情報公開やPRの手段の一つとして既に多くの法人は発刊していた。ホームページを持つ施設は珍しく、いわんやSNSの無い時代。そんな平成17年、私は広報誌の発行を提案し、そして担当者から表紙の依頼があり188回の今に至る。

自身の体験や見解をコンパクトに述べるもの、コラムの定義をそう理解しつつも、中身は自分勝手に書かせていただきながら、申し訳なくも全く私的な話も含め、自身なりに内外に長らく発信してきたつもりである。

構成と校正そして印刷と製本、これらの過程を内輪の職員で行ってきたが、次年度からは一新することとなる。よって、長らく続いてきた表紙のコラムも次号189号がラスト。

最後のネタは今から考えておくこととしよう。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 在宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業
- グループホームなごみ筒井